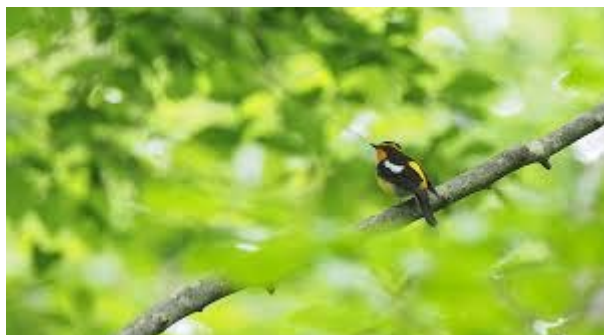


2022/4/10

(うと Q 世話し 鳥語 (人間外言語)) 書庫版



男性は女性の容姿に惹きつけられますが、女性はどうも男性の容姿は二の次で他の何かに惹きつけられている様です。

「何であんないい女があんな不細工なのと付き合ってたんだ？」

というあの謎の現象です。

確かに高校生位迄は男子の容姿にキャーキャー騒いでおりますが高校を卒業する辺りから何かがゴロっと変わってしまう様です。

自分は女性ではないのでそれが何なのかは分かりません。

ところで話は変わりますが最近自分は帽子を被りアタッチタイプのサングラスをし、マスクをかけて歩いております。

理由は白内障で外光が眩しくてならずその為に帽子とサングラスをしており、マスクは言わずと知れたコロナ感染症対策。そうしてお店の行きと帰り、ひたすら歩いているのは抗体が強すぎてワクチンを打つとアナフィラキシーになる恐れがあるのでワクチン接種を一度もしていないからです。

感染予防としては人混みを避けるしかなく、結果公共交通機関を殆ど使わないからです。

自転車も白内障の関係でこれまた危険なので NG。

結果只々てくてこと歩くしかない訳です。

しかし上述のその姿が人間様にはヤクザのヒットマンかスナイパー (狙撃兵) にでも映っている様で、大抵の善良なる市民の皆様方は自分の姿を見かけるとそそくさと足早に自分の脇を通り抜けるか、人によっては反対側の歩道に移ったりします。

ところがこれら人間様の反応とは違って、何故か犬は尾ツポを振って近づいてきたり、鳥は逃げないでじっとこちらを見ていたりします。

人間様には怖く見える自分の一体どこを見て連中が「親しみと思しきもの」を感じているのか、これまた犬でも鳥でもない自分には分かりません。

そういえば今日、お店の朝の準備を終えた後、自宅に帰る道すがらいつもの森林公園を通り抜けた折にある事に気づきました。

Bird singing

英語では鳥の囀りを上記の様に「鳥は歌う」と表現しますが、よく耳を澄まして聞いていると鳥たちは歌っているのではなく「会話している」ように聞こえたのです。

距離の離れた木に鳥が夫々留まっている。

片方が囀ると、もう片方が囀り返す。

しかし、最初の鳥が囀った囀り方と後で囀り返した鳥の囀り方が違うのです。

更に耳をよく澄ましてみると同じ鳥の囀り方も何かいろんな調子の囀り方の組み合わせでできているのが分かってきました。

Bird speaking to each other with bird language

そんな感じでした。

再び勿論、鳥ではない自分にはその会話の中身迄は分かりませんでした。

しかしこうしてみると日頃「こうだと思い込んでいる」世界の他に実はまるでパラレルワールドの様に全く別の世界（観）が同時進行重層的にあるのに気付かされると何だかとても新鮮で得をした様な気分になりました。

ひょっとしたら草木にも言語があるのかもしれない。

ますます面白い。

世界は会話（交流コミュニケーション）に満ちている。

男だけ、人間だけの見方ではつまらないし勿体ない。

そう思いました。